

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100282		
法人名	(有) ナイスケア		
事業所名	グループホーム ひまわりの家		
所在地	千歳市北斗4丁目14-4		
自己評価作成日	平成26年1月6日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームに入居してからも地域との繋がりを大切にして、地域のお祭りや老人クラブなどにも参加できるように積極的に支援している。また、それぞれの認知症に合わせた対応が出来る様に、市内の他施設と合同で勉強会を開催したり外部の講師を施設に招いて指導して頂く等、職員の学ぶ機会を増やし実践に繋げている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0171100282-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 1 月 22 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市中心部から車で10分程の場所に位置し、小中学校や警察派出所、医院が点在して住宅も多い環境にあります。町内会並びに婦人部からはクリスマス会や運動会などの支援、町内会主催のラジオ体操に利用者も参加するなどの交流を始めて3年目になります。また、ホーム駐車場で盆踊りを開催した交流も4年になるなどの交流を深めています。利用者の体調に合わせた食事作りやメニューも多く、手造りの漬物は細かく刻んで食べ易く工夫され、食事前に嚥下体操をして食欲増進につながる取り組みもしています。医療面では往診通院の記録帳が分りやすく記録され共有されています。新入職員研修は業務マニュアルを整備して、新入職員にも分りやすい内容となっています。外部研修ではキャリアパス支援等研修事業などを活用し、市内グループホーム合同で講師を招いて、キャリアパス支援等研修事業などを活用し、職員を育てる取り組みをしています。また、看取り介護は6年前から取り組み看取りの記録、経過説明書などで家族との話し合いも行い信頼関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員や来訪者がいつでも見る事が出来る様、玄関先へ掲示し、共有し合い毎日意識・確認しながら実践に繋げている。	管理者職員はユニット理念の「笑顔」は笑顔で接するだけではなく、利用者が1日一回でも笑顔になれるような介護を心懸け、暮らしの中での笑い、体操での笑いと理念を実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事には積極的に参加し、又、地域の方と会った時には挨拶をする事で交流を深めている。	地域町内会には、ラジオ体操への利用者の参加をボランティアで支援していただいています。また、婦人会からも様々な支援協力をいただくなど交流があります。いつでも訪問しやすいホームとして日常交流をこころがけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事等がある時には積極的に参加し、その関わり合いを通じて理解や支援の方法を理解して頂けるよう実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見があった時には、スタッフへフロア会議等で報告し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヵ月に一度定期的開催されています。会議議事録はホームの様子が細かく記載されています。ただし会議内容は報告事項が多く、意見交換等が少ない内容になっています。また、出席者は多くの参加者がおりますが、記録は氏名のみになっています。	運営推進会議はホームのサービスの実情、取り組み状況など話し合いの内容や、様々な分野の方が参加されているのが分かるような議事録の記載方法に向けた取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月発行しているグループホームの新聞を提出し、活動内容を報告している。	市担当者とは、活動報告書を届ける際に事業所の実情などの話をして助言や指導を仰いでいます。また、市内全グループホームの会議に市の担当部長も参加されホームの取り組みについて協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時には説明を行っている。また、フロア会議や日々の会話の中でも話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者及び職員は内部研修や北海道グループホーム協会主催の研修に参加するなど、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解してケアの実践に取り組んでいます。日常会話の中でも話し合いをしてフロア会議で身体拘束をしないケアを共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議でも話し合い、見過ごされる事がないよう注意・防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について全員が周知していないが、何人かの職員は本を読んで勉強して理解している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安・疑問点に関しては理解して頂ける様、随時分かりやすく説明し、理解・納得が得て頂けるよう努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日々何か要望や意思がないか聞いている。ご家族様には面会時に希望や要望を確認している。	家族の要望や意見は来所時や電話での連絡の際を利用して伺っています。家族への連絡帳なども活用しています。家族の要望で利用者の食事の内容を利用者本意に沿った変更をするなど、ホーム運営に反映をさせています。家族の相談事にも親身に耳を傾けて、家族にも寄添うホームです。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見交換をして反映している。	代表者は年一回の個人面談を行い職員の意見を聞いていますが、代表者も日々職員と共にケアの一員となり日常的に意見や話が出来る環境にあります。フロア会議ではグループホーム合同勉強会や事例検討会などに出席した職員が報告をしています。転倒の事例検討では、「良い動きのサポートをどのようにするか」など意見交換をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と面談したり、日々の職員との会話から思いや考えをくみ取るよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を多く企画・開催し、参加しやすいように勤務を調整している。内部研修を開催したり、外部の講師に直接指導を受けれる機会を多く作っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型事業所の会で共同の勉強会や交流会を開催している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始段階は勿論の事、開始以後も本人の言葉に耳を傾けながら安心して生活が送れるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談で家族の要望や意向を聴き、よく話し合っている。また、入所後も来訪時にも確認し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートや本人・家族の意向にも耳を傾け、取り入れながら、必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来るだけご本人に行き、出来ない所を見極め日々の生活にも生かし、関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には細目に状況を報告したり、意見交換している。無理のない程度でイベント等にも参加している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も継続できる様、取り組んでいる。	利用者は、配偶者が入院している病院へ家族と面会に行ったり、友人の訪問や年賀状のやりとりなど、馴染みの関係が途切れない支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者の性格等も把握し、又、話が途切れたりした際には話しの架け渡し等も行い、孤立せず支え合える様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してからも気軽に来れるように声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でも希望や意向等を聴いている。又、困難な場合はフロア会議等を利用し皆で話し合いをしている。	思いや意向の把握が困難な時は会議ノート(フロア会議の内容)を基に話し合いを行っており、職員から多くの意見が出されています。日々暮らしの中では、お便りの題字を書いてもらう等、力を引き出す支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族にも協力を頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの活用や業務日誌に記録し、職員全員で把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議時に職員全員で話し合い意見やアイデアを反映し、又本人や家族の意向も踏まえ現状に即したプランを作成している。	介護計画はモニタリングやケア会議、家族が来訪の際に希望の介護内容を話し合い、必要な支援は何かを、フロア会議で協議し、利用者の現状に沿って変更するなど要望を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を暮らしのアセスメントシートへ記録し、連絡ノートを活用して職員の間で情報共有しながら、実践・介護計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが生まれた時は、記録にも残し即座に話し合い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・老人クラブのイベントに参加を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で往診・毎週月曜日に訪問看護に来て頂き、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回医師の往診、週2回看護師の訪問があります。利用者の体調に合わせた受診支援もしています。通院記録、往診記録は別々に細かく記録され、職員は情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来訪する際に、相談・指示を仰ぎ必要であれば受診出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と相談・情報交換を行い、出来るだけ早く退院できる様努めている。また、介護医療連事業に参加して、病院関係者と顔の見える関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に家族とよく話し合い意向を確認している。また、そのような時には医師や看護師、病院の相談員も交えてよく話し合い、ホームで出来る事を十分に説明し納得をしていただいた上で、看取りの介護を行った。	終末期に向けた見取り介護に関する指針を明文化し、家族ともよく話し合っています。見取り看護経過説明書に看取りの記録を細かく記載しています。看取り介護は6年前から医師や看護師、家族の協力を得てホームで出来る事を話し合いながら取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の研修を開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防や地域の方と一緒にやっている。また、地域の防災訓練にも参加している。	避難訓練は消防署や町内会の方の協力を得て実施しています。地域住民とは、見守りや暖房の協力の話し合いもしています。また、去年は備蓄の補充など緊急時に備え、体制を整える災害対策に取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重した言葉かけ・言葉使いには常に注意を払っている。1年に1回はマナー講習を開催し、職員は受講している。	職員は人格を損ねない言葉かけに心がけ、日々対応をしています。年1回のマナー講習を2月に開催します。日々の暮らしの中での気になる言葉づかいには、その場の雰囲気が悪くならないように対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身もスタッフへ訴えてくる他、スタッフ全員も自己決定が出来るような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせて支援している。お化粧を希望する方には、出来ない所を手伝い行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目からも楽しめる様、彩りや盛り付け食器等も工夫している。出来る範囲で盛り付けや配膳、下膳を行って頂いている。	食事のメニューは多く、「この食事は美味しいよ！」と代表者が言うように、頂いた手造り味噌の味噌汁や漬物が食卓における笑顔の会話に繋がっています。利用者の力を借りて魚を料理してもらうことや米とぎをしてもらう等利用者が参加し楽しく食事出来る支援をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は記録をして、一目でわかる様にしている。食事に関しては、個々に合せた量や食事形態（柔らかさ・掴みやすい形等）で提供し、暮らしのアセスメントシートに必要なに応じて記録して、一人一人の状態把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その人に合わせて出来ない部分を介助している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合せた下着を使用し、職員全員が排泄パターンを把握して支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、声かけにも十分配慮しながらトイレでの排泄を支援しています。夜間などもリハビリパンツを使用して、おむつは利用していません。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供や水分摂取の促し、繊維質の多い食材の活用、又腹部マッサージなどを行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週5回入浴を行っており、いつでも気軽に入って頂けるようにしている。	入浴シートは利用者が入浴出来ない理由が書かれ、入浴、シャワー浴、足浴と分りやすい入浴支援をしています。入浴は週5回、14:00～16:00で対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて休息を促したり、眠るまで電気をつけて欲しい等要望に応じた対応をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が理解できるよう、互いに説明。確認し会議内でも薬の目的など話し合いを行っている。変化のある時は記録へ必ず残している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、化粧や読書、唱歌等を楽しんで頂いている。片づけを手伝ってもらったり、外出等で気分転換してもらえよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方達の協力を得ながら外出や行事に参加している。	日常的な外出は町内会の方が迎えに来て、町内会主催のラジオ体操への参加や町内会館での誕生会、花見、紅葉狩りなどの外出支援をしています。ホーム行事などの外出も計画書が作成され、「利用者に楽しんでもらいたい」と言う職員の思いが込められた細やかな内容です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族にも説明をしたうえで、必要に応じ所持している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じ出来る様にしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしたり、畳を取り入れるなど、馴染みのある空間を作っている。	共用空間は心地良く、安全にも配慮され、立ち上がりやすいようにイスの足が短いソファを置いた場所で利用者はゆったりと過ごしています。食堂のイスも座った位置の安定感を考え、背もたれ用に座布団を置くというような工夫もしています。季節感も感じさせる節分の鬼の折り紙の顔は、利用者一人ひとりの名前が書かれ、暖かい雰囲気のある共用空間です。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にイスを置いたり、気の合った同士で過ごせるよう椅子を配置している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持ってきて頂き、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	居室は馴染みの物が置かれ、清潔感のある明るい居室です。希望や状況に合わせて、ベッドではなく床に布団をひいている利用者もおり安全を考えた工夫や配慮をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや壁等の安全対策は建物設計時に検討し完備されている。また、個々に合わせてベッドや椅子の配置などの工夫をしている。			